

市長記者会見記録

日時：2022年1月18日（火）14時00分～14時32分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：2022年ブランドメッセージポスターを作成しました（総務企画局）

全国都市緑化かわさきフェアの開催が正式決定しました（建設緑政局）

市政一般

<内容>

<2022年ブランドメッセージポスターを作成しました>

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日1つ目の議題は「2022年ブランドメッセージポスターを作成しました」となっております。それでは、福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、まず、2022年ブランドメッセージポスターについて御説明をいたします。

今回のポスターは、「KAWASAKI 20XX-多摩川スカイブリッジ」といたしまして、3月12日に開通する多摩川スカイブリッジをテーマとしております。皆様のお手元に配付しております資料のポスターのコピーを御覧ください。「つなぐ、結ぶ、超える。その橋は、今日と未来をつなぐ。新たな出会いを結ぶ。あらゆる境界線を越えていく。675メートルのその先には、どこだって行ける空が広がっている。」。今回のポスターは、多摩川スカイブリッジとこれからの川崎市の可能性をテーマに作成をいたしました。昇る朝日とともに映る橋は、広い空、広い海、そして世界中の人と人を結ぶ未来につながる橋であり、川崎の可能性が未来に続いていくことを表現しています。

また、川崎市は2年後の2024年7月1日に市制100周年という歴史的な節目を迎えます。この新しい橋の開通が次の100年の助走となって、本市が次のステージに飛び立つことも表しております。朝日には、コロナ禍で閉塞した世の中に光が差し込む希望も込められておまして、このポスターから本市の可能性と未来への希望を感じていただけたらと思っております。今後、多くの方に見ていただけるよう、本市関連施設のほか、市内の鉄道路線各駅などで掲出してまいります。

私からの説明は以上になります。

<全国都市緑化かわさきフェアの開催が正式決定しました>

【司会】 続きまして、2つ目の議題、「全国都市緑化かわさきフェアの開催が正式決定しました」について、福田市長から引き続き御説明いたします。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 市制100周年の節目を迎える令和6年度に、全国都市緑化かわさきフェアの開催が正式決定をいたしましたので、お知らせさせていただきます。本市では、これまでの100年を振り返り、次の100年に豊かな環境をつないでいくため、新たなみどりの価値の創造と多様な主体によるみどりの都市づくりを目指しており、その契機となる取組として、令和6年度の緑化フェア開催誘致を進めてまいりました。

このたび、令和4年1月17日付で国土交通大臣の同意が得られたことによりまして、本市初となる緑化フェアの開催が正式に決定いたしました。開催時期については、市内の特色あるみどりを感じ、地域資源を生かした取組を全市的に展開していくため、令和6年10月中旬から11月上旬の20日間、及び令和7年3月上旬から下旬の30日間の2期開催といたします。

また、会場について、本市の南部、中部、北部に立地する三大公園である富士見公園、等々力緑地、生田緑地をコア会場とし、その他に協賛・連携会場として、市内の駅や商業施設等と連携した取組を展開し、市内全体で一体感を生み出していきます。この緑化フェアの開催を契機に、市民、企業、関係団体などの多様な主体との協働・共創により、フェア開催以降につながる取組をフェア開催前から展開、発信していきます。

次に、みどりの新たな価値の創造に向けた取組の第一歩として、市庁舎をフィールドとした民間企業との共創による実証実験を実施いたしますので、お知らせをいたします。本日から約2か月間、建設緑政局の執務スペースや会議室、市長応接室において、みどりを使った空間デザインであるバイオフィリックデザインの効果を定性的・定量的に評価、検証するための実証実験を民間企業4社との協働により実施いたします。これにより、みどりの価値を見える化し、新たなビジネスモデルやライフスタイルの提案につなげていきたいと考えております。

なお、本日はその取組の一環として、共同実施者であるM I I I I O様、株式会社グリーンバル様に御協力をいただき、記者会見場にバイオフィリックデザインのイメージを設置しております。このほかに、データの計測をダイダン株式会社様、音響機械の提供を大和リース株式会社様に御協力をいただきます。こうした市民、企業様との協働・共創による取組を緑化フェア開催前から展開していくことで機運の醸成を図るとともに、都市の中のみどりをまちの価値向上につなげていきたいと思ひます。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明をいたしました2つの議題に関する質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題に関する質疑が終了後、改めてお受けしたいと存じます。それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

《2022年ブランドメッセージポスターを作成しました》

【毎日（幹事社）】 幹事の毎日新聞です。このポスター、20XXって、このXXに込めた思いはどんな思いなんですか。

【市長】 これ、実はシリーズ物になっておりまして、過去にも20XXということ、近未来の川崎の状況というか、近未来といっても非常に近い未来でありますけれども、前回はたしかキングスカイフロントで行われている研究で、たしか「未来は、想像以上に小さい。」というキャッチコピーだったと思いますが、そうでしたっけ。そこに書いてありますか。資料に出ていますか。そういう意味で、未来感がありながらも、実は川崎ではこういう未来的なものが現実に行われていることを示している、そういうキャッチになっています。

【毎日（幹事社）】 あらゆる境界線を越えていくって、このあらゆるというところに、やっぱり市としての思い入れがあるんですか。

【市長】 いわゆる、このブリッジにかけて、いろんなものを越えていくというのは、そういう意味では国境も越えるかもしれないし、市境を越えるかもしれないし、人々のいろんなものを超えていく、あるいは、技術の進歩でいろんなものを挑戦、超えていくという、現実を超えていくという、いろんなものを越えていくというものであります。

【毎日（幹事社）】 こういうのを定めるようになって、2016年が初めてなんですね。これを見ると2016年……。

【市長】 ブランドメッセージの、そうですね。

【毎日（幹事社）】 2016年にポスターを何種類も作って、その後、飛び飛びになっているんですけど、17、19、20、21となって、18が飛んでいたりするんですけども、これは……。

【市長】 あれ、18は何かありましたっけ。

【総務企画局】 では、御説明申し上げます。こちら、作成年を示しておりまして、2017年まではその年に作っておりましたけれども、2019年は、年をまたいで1月以降につくっておりますので飛んでいるように見えますけれども、毎年度作成し

ているものでございます。

【毎日（幹事社）】 じゃ、見かけが飛んでいるわけですね。今回のこれは費用はどのぐらい見込んでいるんでしょうか。ポスター作成。

【総務企画局】 ポスター制作にかかる費用は270万円程度でございます。

【毎日（幹事社）】 これは、制作とデザインとかも全部含めてですか、270万。

【総務企画局】 そうでございます。

《全国都市緑化かわさきフェアの開催が正式決定しました》

【毎日（幹事社）】 それから、この緑化のほうの今日のこの緑はデモンストレーションなんですけど、業者さんが持ってきたものですか。

【市長】 そういうことです。

【毎日（幹事社）】 その後、また業者さんが持って帰る感じですか。

【市長】 持って帰るといふか、これからそれぞれの設置に入るといふ。

【毎日（幹事社）】 じゃ、これを使うという感じになる……。

【市長】 ということですよ。はい。

【毎日（幹事社）】 使うものを持ってきた。

【市長】 はい。

【毎日（幹事社）】 イメージとすれば、市長室もこんなふうになっちゃうみたいなの。

【市長】 いや、どういうふうになるのかまだ分かりません。

【毎日（幹事社）】 このフェア自体は、予算規模はどのぐらいの感じになりそうなんですか。

【市長】 まだ立ち上がっていませんので、そういう意味では、今後、実行委員会などが立ち上がってから経費というものが出てくると考えています。

【毎日（幹事社）】 これは、市だけの単独で出すわけじゃない……。

【市長】 国からのというのもありますけれども、概算で言うと、これまでの他都市の事業費って大体10億から20億ということを言われています。

【日経（幹事社）】 幹事社の日経新聞ですけれども、都市緑化フェアなんですけど、これ、秋と春に2回に分けて開催されるというのは、例年、1年で3月から6月とかそういうような開催が多いようなんですけど、何か理由はあるんでしょうか。

【市長】 やっぱり川崎の多彩な緑の魅力を見せていくという意味では、それぞれの拠点がありますので、こういったところの花を見せたいとか木を見せたいとかといふので、川崎はバラエティーに富んでいるので、その特色を出すには2期開催のほうがいいかなということなんです。

【日経（幹事社）】 分かりました。あと、23年開催の仙台市の場合は、東日本大震災からの復興みたいなテーマを掲げていますが、今回の川崎でのフェアについては、何かテーマは掲げていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 具体的なテーマというかキャッチみたいなものは、今後しっかりと発表することになっていきますが、いずれも先ほど申し上げたように、都市の中のみどりというのがまちの価値を上げていくことになる。それは、私たちの生活も豊かにしていくし、潤いとかという、様々なビジネスチャンスだとかライフスタイルに与える影響がすごく大きいと思いますので、そんなところがざっくりとしたテーマになっていくのではないかな。

【日経（幹事社）】 分かりました。

【毎日（幹事社）】 じゃ、各社さん、この発表されたことについての質疑がありましたら、お願いします。

【神奈川】 神奈川新聞です。緑化フェアの関連なんですけれども、新たな緑の文化の醸成ですとか、誰もが暮らしやすく住みたいまちの実現とうたわれているんですけれども、市長の中でどんなイメージをお持ちなのでしょうか。

【市長】 どの部分ですか。

【神奈川】 新たな緑の文化の醸成ですとか、誰もが暮らしやすく住みたいまちの実現とかって。

【市長】 やっぱりみどりの中で生活していくのはとても大事なことというのを、この時代になってもものすごくみんな感じているのではないかなと思っています。川崎の歴史から見ると、里山だとか森林だった、あるいは畑だったところを住宅開発だとかということで、生活拠点を整えるために、ある意味、それを犠牲にしてきたものもあったと思います。でも、これからの市制100周年を境にして、都市の中でうまく質の高いみどりをつくり出していく、あるいは育てていくという、そういったものが私たちのライフスタイルにとっても大事だし、ひいては、まちの価値の向上にもつながると思っていますので、世界の都市でもみどりの価値を非常にうまく引き出している都市があって、ニューヨークだとかパリなんかはその典型だと思いますが、そういったところは、いわゆる産業都市のような川崎だからこそ、むしろみどりに大きくかじを、かじをとるか、価値を見いだしていきたいと思っています。

【神奈川】 もう一つよろしいですか。

【市長】 はい。

【神奈川】 今日、会見の雰囲気は違いますけれども、中に立たれて心境はいかがで

すか。

【市長】 やっぱりあると気持ちいいものですね。何となく無機質な役所とかオフィスだとかというところにも、仕事場にもみどりがあるのは大変気持ちいいものだと思います。今回も期間で、それを定量的、定性的に少し測ってみたい、感じてみたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【読売】 読売です。緑化フェアの2のほうの実証実験というのは、効果を検証と書いてあるのは、後段の米印の幸福度の向上とか生産性向上とか、その辺を検証するということですか。

【市長】 そうですね。まず、先ほど申し上げたメインで言うと、建設緑政局の執務室になりますけれども、そこで今おっしゃられたような環境評価、心理評価、生理評価等の定性・定量評価と、それからウェアラブル端末を装着して、バイタルデータなどを計測して、またアンケートなども実施していくということであります。ですから、まず、みどりを置く前のバイタルと、置いた後のバイタルだとか、あるいは、その前の心理状況だとかというものを測っていくということでございます。

【読売】 そういうものをつけると、何か幸福感の度合いが分かっちゃったりする…。

【市長】 幸福感みたいなのはどうなんですかね、バイタルなのか、それとも少しアンケートみたいなものなのかもしれませんけど。

【読売】 ありがとうございます。

【朝日】 朝日新聞です。重ねてですけど、これ、大体対象になる職員というのはどのくらいを想定していますか。それと、実証実験が終わってから、新たなビジネスモデルやライフスタイルの提案、その後のスケジュールを大体分かっているところで教えていただければ。

【市長】 じゃ、まず事務方からでよろしいでしょうか。

【建設緑政局】 建設緑政局でございます。まず、ウェアラブル端末を装着する職員の数でございますが、7名でございます。また、その後、結果を取りまとめた後のスケジュールでございますが、一応、3月まで計測を行いまして、年度明けて、その評価等を行っていくのが今のスケジュールでございます。

失礼しました。14名です。7台ウェアラブル端末がございまして、それを~~1ターム~~2タームにおいて~~2ターム~~7名ずつの2グループが交代でデータを(※補記)取りますので、14名の職員になります。

【朝日】 年度明けにまとめて、その後というのは特にはないのでしょうか。せっかく5者協定というような形で締結もしているんですけど、その中には……。

【建設緑政局】 まず、結果の取りまとめを行った後に、その結果の公表とか、そうしたところの取組は年度が明けてから実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

【朝日】 分かりました。

【東京】 東京新聞ですけれども、市長応接室にも設置されるということなので、市長も端末をつけられるのでしょうか。

【市長】 どうなんですかね。市長応接のところは私も常にいるわけではないので、そういった意味では、より広報的な意味合いが強いと思います。たくさんのお客さんがお見えになるので、仕事場あるいは応接だといったところに、こういうふうな緑の配置の仕方があって、それがどう心理的だとかという影響をお見せする、感じていただくには最適な場だと思っています。

【東京】 じゃ、その場で実証実験をするというよりは、公開してお客さんなんかを招く場所なので、そういう中で、こういう視覚効果というか、そういうのを見てもらうという形……。

【市長】 そうですね。こういうものに川崎は今取り組んでいてというのが、今後の展開につながっていくんじゃないかとは思っています。

【東京】 分かりました。

【毎日（幹事社）】 この2つの件について、特にあとはないのでしょうか。

《市政一般》

《新型コロナウイルス感染症について》

【司会】 それでは、市政一般について、よろしくお願ひします。

【日経（幹事社）】 幹事社の日経新聞です。今、首都圏でまん延防止措置というものが取られることに近々なると思いますけれども、米英などでは自主隔離ルールというものを大きく変更して、濃厚接触者については追加接種など必要なしにするとか、いろいろとその辺、日本は3回目の接種が出遅れているとはいえ、かなりオミクロン株に対して社会経済を回していくかじを取っているように思われます。先日も濃厚接触者の待機期間とか短縮になりましたけれども、実際、いろいろ地元を御覧になって、経済を回していくという観点から、現在のこのような、ちょっと日本の過剰というか慎重な姿勢に対して、国や県に対して何か御意見とかありますでしょうか。

【市長】 先日も岡部所長から、欧米などのデータに基づいて、何日目から陽性者がウイルスを発しなくなるのか、うつさなくなるのかだとかというデータに基づいて説明をいただいたんですが、1週間とか10日とかというところからもうなくなってくるというのは、そういう科学的知見に基づいて判断されるべき話だと思うので、それに基づいて政府もしっかりと説明をしていただきたいと思います。何となく経済優先だからこうなっているということではなくて、科学的知見に基づいてこういう判断をしているんですよという説明が必要だと思いますし、私もそのようにしていくべきだと思います。

一方で、おっしゃるように、今日も95名の入院者、市内でいらっしゃいますけれども、幸いにして重症ベッドはゼロでありますので、オミクロン株の特徴が出ていると思います。そういった意味で、この株の特徴をしっかりと考えながらの対策は必要になってくると思うので、当然経済社会を壊さないように、うまく付き合っていくことが必要かなと思っています。

【日経（幹事社）】 あと、日本の場合、陽性者というのは保健所、それから入院調整も保健所、自治体が非常に関与しているということになっておりますけれども、保健所経由の機動力というものが、このままこれだけ感染者があると非常に懸念される場所ではあると思います。5類への引き下げとか、いろいろ議論されている中で、保健所を日頃御覧になっていて、国や県に対して、こういうふうに改善したほうがいいのではないか、こういう法律をつくったほうがいいんじゃないかというような御意見がありましたらお願いします。

【市長】 実態はいろいろ変わってきていると思うんですが、今、実際に濃厚接触者の積極的疫学調査みたいなものは、そこはもうフォローできないのは事実上そうなっている。そういう意味では、プラス健康な……、この言い方が、僕も言ってながら科学的な根拠に基づくのかということになっちゃうんですが、軽症、無症状の方を全部フォローしていくことがどこまで本当に必要なのかというのは、マンパワーとの兼ね合いから、そういったところは、より迅速に規定を変えていくのは必要なのではないかと思います。何となく運用上やっていくというよりも、ルールを細かく変更していくのはタイムリーにやっていくべきだと思います。本当に3日、4日遅れることによって保健所の疲弊はすさまじいものがあるので、そういったものを敏感に感じて、私たち、伝えている話をルールという中で国で決めていただきたいと思います。

【日経（幹事社）】 分かりました。

幹事社から以上ですが、各社、何かありますでしょうか。

【神奈川】 神奈川です。井田病院でスタッフのクラスターが発生しておりますけれども、病院に聞きますと、クラスターが発生していない病棟から応援で業務に従事してもらっているという話なんですけど、これからも感染が増える可能性もあります。早めの手を打つ必要性はないんでしょうか。市長の考えを教えてください。

【市長】 早めに手を打つとおっしゃいますと……。

【神奈川】 そのうち、人手不足になることが懸念されると思います。

【市長】 そういう意味では、看護師とかも濃厚接触者になってということで、今、国のルールも変わって、症状が出てなければという話がありますけれども、復帰していいというのは、運用上、もう既にやっていると報告を聞いています。そのように、全部が全部待機という形になると、とても回らなくなると思うので、そういったものをルールに基づいて迅速にやっていく、対応していくことが必要なのではないかなと思います。

【神奈川】 濃厚接触というのは、実際に感染者が出てしまっている状況で、どうしてもやっぱり一定の期間働けなくなる状況は生まれてくると思うんですけども、その点に関してはいかがですか。

【市長】 本当に、この時点で100%、あれだけ注意していても感染してしまうということですから、そういう意味では、かかってしまってもそれは致し方がないとは思いますが、かかってしまっても、なるべくうつさないような取組に転換していくということで、病院事業管理者からもそういう話を受けていますし、そうしていくしか方法がないんだろうとは思っています。

【東京】 東京新聞ですけれども、今週内にもまん延防止の措置が県内に取られるんじゃないかということで首都圏の会議が行われていますけれども、場合によってはまた、飲食店への時短要請等、昨年もそういう意味では厳しい状況で続いた、また、実施が行われるかもしれないということで、改めて市内の経済で心配、それから、お店の経営者の方たちに呼びかけることがあれば教えてください。

【市長】 1都3県それぞれの知事が、本市で言うと神奈川県がどう判断する、どういう措置を取るのかはまだ分からないところがあるんですけども、私の感覚から言って、時短の意味がもう分からなくなっている状況ではないかなとは思っています。一方で、多人数でということはリスクは高いんだろうと思いますから、基本的な感染対策を行っていく上で、なるべく通常のものにしていくことの努力は必要だと思うので、本当に実態に合った対策というものをすべきだと思います。

ですから、これまでの第何波までというふうな、強いメッセージ性を持ってだけ防

ごうなんていう考えは、恐らくもう通じないと私は思います。例えば、今のオミクロンの特性なんていうのは、市民の皆さんも十分理解した上でしっかり行動していかなければならないフェーズだと思うので、そういう意味では実態に即した対策が打たれることを期待したいと思いますし、しっかりと伝えるものは伝えていかなくちやいけないとは思っています。ただ、こればかりは1市の考えではなく、首都圏全体に引張られるところもありますので、そこは尊重しなければならないと思いますけれども。

【東京】 そうしますと、市長の思いとしては、改めて時短を要請するとか、お酒の提供を自粛するとか、あと人数制限とかも厳しくするとか、今、既にもう現状、気を付けて市民も対策を講じているところだと思うんですけども、それに規制をプラスされるというよりは……。

【市長】 いや、もっと緩和されるべきだと言っていることではなくて、対策によっても、例えば、お酒、夜は出しちゃいけませんと言いながら昼間は出しているというちぐはぐな話、昼も夜も関係ないだろうという話だとか、あるいは時短が問題ということよりも、むしろ人数のほうがリスクが高いんじゃないのとか、あるいは認証店なのか非認証店なのかとかという、それぞれにやっぱり実態に合わせたものにしたほうがいいとは思っています。

何となく、夜早ければいいんだとか、お酒を出さなければ安全なんだというのが、昼間は飲んでいけど、昼間はこれは問題ないわけ？ といったらそうではないはずで、そういうところはやっぱり実態に合わせた対策を打つべきだという意味です。だから、単純に時短したから、感染対策上、本当にそれが効いているのという、私も含めて疑問に思っている方は非常に多いんじゃないかなと思います。それは、経済との見合いというだけではなくて。

【朝日】 保健所体制の件ですけども、重症者の発生は、今のところあまりないということで、基本的に自宅で療養するようなところ、そういった人の中で急変事例があるのかどうかは分からないんですけども、保健所を通じて、より医療につなげるタイミングというんでしょうか、その拾い上げみたいところが重要になってくるのかなと今回思うんですけども、せんだって、保健所体制の強化というようなことで資料発表されているんだとは思うんですけど、もし感染が拡大した時点になると、現状、医療従事者の濃厚接触者の隔離期間のことが問題になっているかと思うんですけど、保健所の職員であるとか、市からも応援が行くんですけど、そういったところでも欠員が出る可能性がありますよね。あと、足りなければ派遣会社から人を出してもらうというようなことも対策の中に入っていたかと思うんですけども、同時多発的

にいろんなところでそういうことが起きたときに、なかなか大変な局面も想定され得るのかなと思うんですが、その辺りはどうお考えでしょうか。

【市長】 まず、今回取っている対策でもう御案内かと思えますけれども、今回の第6波を見越して派遣会社に委託をして、人数を、この第6波があろうがなかろうがということで、昨年からもう1月中には投入し始めるという契約を結んでやってきたので、それなりの体制は取れると思います。プラス、市の職員の応援体制というのと、どここの区には何々局がカバーに入るとかという、いろんな体制を組んでいます。プラス、本当に蔓延してどうにもならないということになってきますと、さらなる、いわゆるBCP的な業務の縮小も段階によっては考えなくちゃいけないということもありますし、時期に応じて、感染状況に応じた対策をしっかりとっていくことと、それが見えた段階でなるべく早めに対応するようにということをやっていくことが必要だと思っています。

【朝日】 分かりました。

【tvk】 tvkです。お願いします。昨日も保育園が15個ぐらい休園になっているとか、学級閉鎖だったり学校閉鎖も起きてきていると思うんですけど、第5波のように、登園自粛だったりとかそういった対応は取られる予定はありますか。

【市長】 現在のところは、学級閉鎖だとか園がそのまま閉まってしまうということってだんだん増えてきているので、非常に懸念しておりますけれども、ただ、本当にみんなを閉めてしまうと社会全体が止まることを意味する。特に保育所ですとか保育園みたいところは閉じてしまうと、いわゆるエッセンシャルワーカーと言われている人たちが全く動けなくなることが想定されるので、それは避けなければならない事態だと思っています。ですから、PCR検査の検査体制をはじめ、そういったところで充実していくしか、ある意味方法がないと言ったら嫌な言い方ですけども、そこを充実させていきたいとは思っています。

【tvk】 ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 ほか、いいですか。

【司会】 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した

上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312